

Pyramix V11.1 Release Note

V11.1 新機能と変更点

入出力の増加

以下の通りにシリーズのチャンネル数が強化されました。

- NATIVE ESSENTIAL 48trk (@1FS), 5.1 Bus
- NATIVE STANDARD 48trk (@1FS), 7.1 Bus
- NATIVE PRO 48trk (@1FS), 22.2 Bus
- MASSCORE STANDARD 7.1 Bus
- MASSCORE PRO 128 ch
- MASSCORE EXTENDED 384 ch

Note: MassCoreユーザーは、Pyramix Native設定で使用すると、Playoutタイムラインのトラックをミキサーに制限されることがなくなりました。

Native Standard と MassCore Standard ユーザーには、以下のオプションが加わりました。

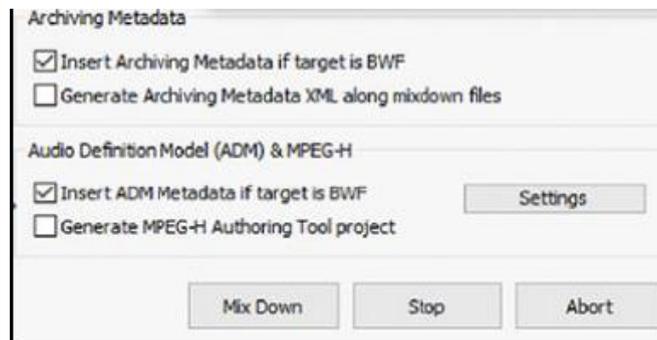
- Pow-r Redithering
- DDP Creation
- Advanced Interchange (Sonic Solutions / Open TL Import / FCP XML)

EBU Audio Definition Model (ADM) メタデータのエクスポートが可能になりました:

- ADM メタデータのエクスポートはMixdownプロセスで行われます。
- ADM メタデータは *Single Media* オプションを使用する場合に、BWFファイルに入れられます。
- ADM メタデータは、1つのADMオブジェクトが1つのPyramixミキサーのバスに対応します。一般的なミキシングバスまたはオブジェクトバスのいずれかでなければなりません。エクスポートされたADMオブジェクトは、Mixdownのダイアログで選択したミックスソースに対応します。
- ADMプログラムとコンテンツは、選択したミックスソース（バス）に基づいてADMオブジェクトを参照するように自動的に生成され、埋め込まれます。
- ADMメタデータを生成するには、“Insert ADM Metadata if target is BWF” のチェックボックスをオンにし、BWFとSingle Mediaを選択してミックスダウンに進んでください。
- 各ミックスソースのコンテンツを定義する追加のメタデータは、“Insert ADM” ボタンの近くのSettingsで編集できます。
 - 各Mix Sources / Objectに言語 (Language) を割り当てることができます
 - 各Mix Sources / Objectは、ダイアログオブジェクト (Dialogue object) として設定できます

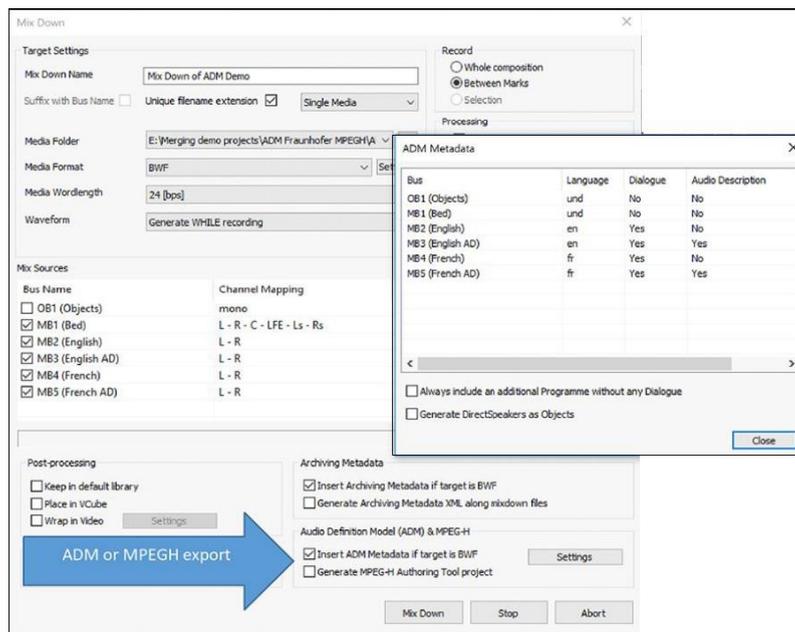


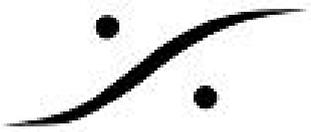
- 各Mix Sources / Objectは、オーディオ記述オブジェクト（Audio Description）として設定できます
- 選択したミックスソースに加えて、上記のメタデータは、ADMエクスポートプロセスが論理的で包括的なADMプログラムおよびコンテンツを適切に作成するのに十分です。
- その他の設定オプション：
 - Dialogueなしで追加のプログラムを常に含めることができます。DialogueなしでBedとダイナミックオブジェクトのみを追加することができます。このプログラムは、追加の言語トラックを準備するためのダビングハウスに便利です。
 - オブジェクトとしてDirectSpeakerを生成すると、EBU標準スピーカーをバイパスして、すべてのオブジェクトとベッドを純粋なADMオブジェクトとして生成できます。一部のADMレンダラーで必要になる可能性があります。



MPEG-H Authoring Toolプロジェクトの生成が可能になりました。

- MPEG-HATプロジェクトは、ADMメタデータの生成に使用されたのと同じメタデータを使用します
- プロセスと設定はADMを生成する場合と同じです（上記を参照）。唯一の違いは次のとおりです。
 - MPEG-HATは、“One File Per Track”を使用したBWFを使用します。
 - “Generate MPEG-H Authoring Tool project” チェックボックスにチェックを入れて下さい。



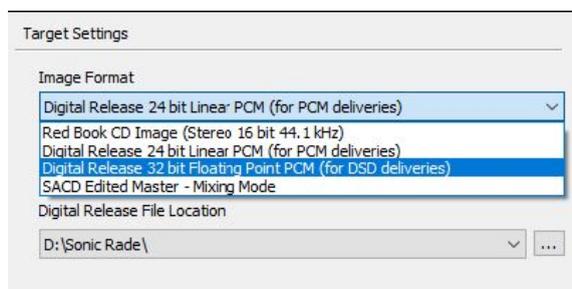


Ambisonicサポート

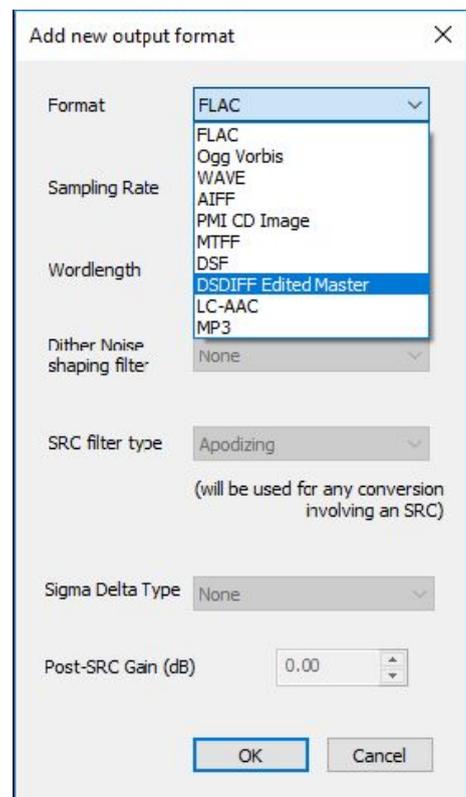
予定されていたAmbisonicサポートは延期となり、Pyramix v12 Betaサイクルで計画されています。Pyramix v11.1 BetaバージョンでAmbisonicコンポーネントを使用してプロジェクトを作成したユーザーはPyramix v11.1のプロジェクトでも作業できますが、Ambisonic StripsまたはBusesで新しいプロジェクトを作成することはできません。

Album Publishing 機能の強化

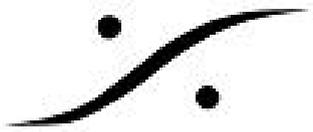
- Album Publishing ファイルの名前付け機能の強化
 - 利用可能なタグを表示して追加するためのボタンが追加されました。
 - factory preset の追加されました。
 - User preset が別のファイルに保存できるようになりました。
- Album Publishingフィールドの消去が可能になりました。
- Generate CD Image からMTFF Digital Release が作成された場合、Cover artworkは含まれません。
- MTFFにエンベデッドされるCover artworkは、DiscWriteで使用されるものが使用されます。
- Digital Release 32ビット浮動小数点PCMサポート（DSDデリバリーのため）



- DSD Digital Releaseのための+0dBFS情報の送信を可能にするために、32Bit MTFF から DSD Digital Releaseが作成されます。これは、24ビットのソースファイルからDSDファイルを作成することを避けるために実装されました。その場合、作成されたファイルが0 DSD（Full Scale PCMより上）となり、ファイルがクリッピングされる可能性があります。Digital Release 32ビット浮動小数点PCMサポートにより、この問題が起こることはありません。
- Sigma Delta（DSD出力形式）またはSRC（PCM出力形式）の前に適用されるAlbum Publishing outputで使用可能なExtra Gainパラメータが追加されました。

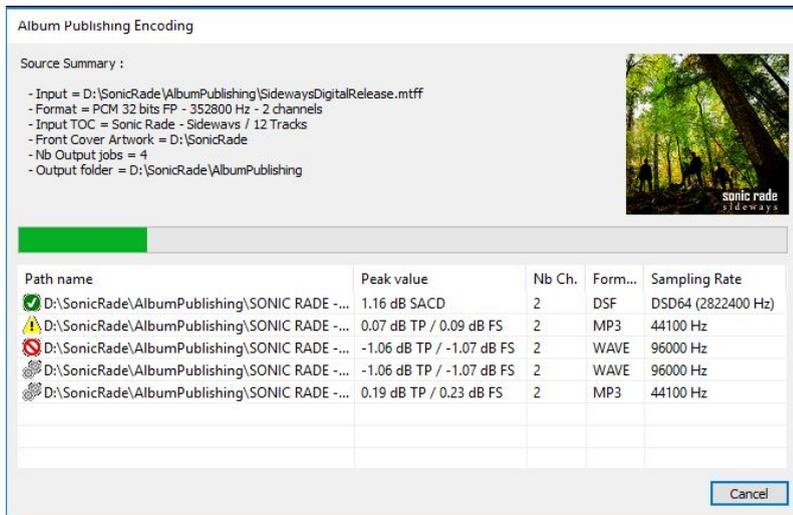


- 様々なDSDのAlbum PublishingでDSD変調レベル測定が可能になりました。
- Album Publishingの出力ファイルにDSDIFF Edited Masterが加わりました。3つの異なるサンプリング周波数より洗濯することができます：入力ソース形式に応じてDSD64、DSD128またはDSD256 この改良により、ユーザーはAlbum PublishingでDSD Edited Mastersを作成することができます。



新しい Album Publishing エンコーディング ダイアログについて

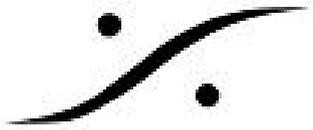
Album Publishing ファイルが作成されると、ピーク測定が実行され、新しいダイアログウィンドウが開きます。



- PCMで Album Publishing を行う場合、True PeakとPeakメータリングが可能になりました。
- DSDでのアルバムパブリッシングのプロセス中にDSDモジュレーションレベルが計測されます。
- オーディオレベル超過の追跡とエラーレポート
- マスターインプットと作成中と作成されたファイルの情報表示がついた、新しいAlbum Publishing Progressウィンドウができました。
- Album Publishingのプロセスのログができました。ログファイルはAlbum Publishing プロセスが終了すると指定されたフォルダに作成されます。

Dialog アイコンと値 :

- Processing:
 - 処理中
 - プロセッシングは正常に完了し、検証されました
 - プロセッシングがスタートできません
- Warning:
 - Full scale: 0 dB 以上
 - True Peak: 0.1 dB 以上
 - DSD: 3.9 dB 以上注意 : プロセッシングをキャンセルすると警告が表示されます。
- Error Message Box:
 - An error occurred please consult the generated Log file (エラーが起きました ログファイルを参照してください)
 - The log file is located in the destination folder of the published files (ログファイルは、作成されたファイルの保存先フォルダにあります)



新しくスタンドアロンとなったAlbum Publishing アプリケーション :

- Pyramix v11.1をインストールすると同時にインストールされます。
- 新しいアイコンがデスクトップに表示されます。 
- PyramixのCustomインストール オプションでスタンドアロン モードとしてインストールすることも可能です。
- Standalone Album Publishingには、選択した出力メディアフォーマットに応じて必要なキーが必要です。
- Standalone Album Publishingは、複数のインスタンスを同時に実行できます。
- 各インスタンスの独立した設定（初期設定の変更時）が可能です。

Mixer :

VST3をサポートする新しいVSTホスティング

Pyramix v11.1は現在VST3プラグインをサポートします :

VST3プラグインは、その技術的進歩が認知されています。VST3プラグインは固定数の入力と出力に制限されなくなりました。パフォーマンスの向上、編集ウィンドウのサイズ変更（プラグインがサポートしている場合）、動的な複数の入出力がサポートされました。

- VST3プラグインはVST2プラグインおよびVST3プラグインとともにMixerでサポートされるようになりました。
- VST3はPyramixの起動時にデフォルトでスキャンされます。All Settings > Mixer > VST-Plugins にフォルダを記入する必要はありません（VST2プラグインは必要です）。

注意 : VST3プラグインはc : \ Program Files \ Common Files \ VST3フォルダに追加するように指定されています。このフォルダはPyramixの起動時にスキャンされます。

- VST3プラグインは、FXレンダリングで使用できます

注意 : Render> Effects Rackでは、VST3プラグインはサポートされていません

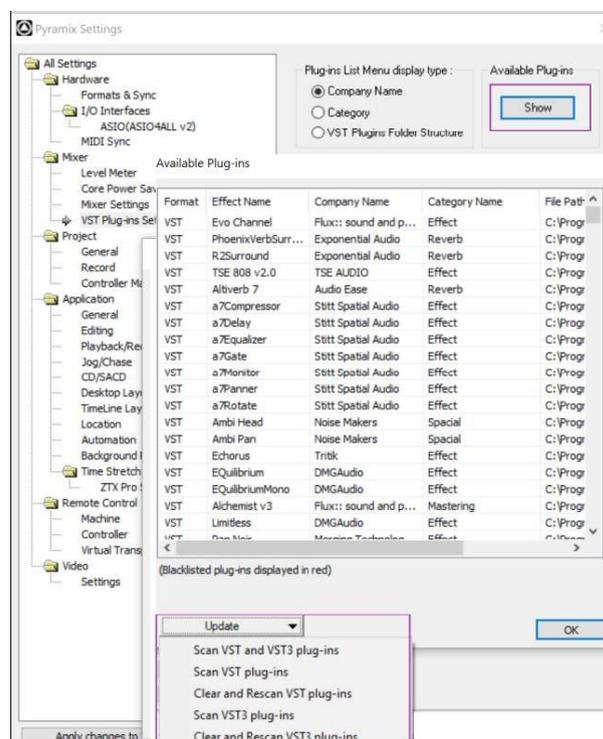
- Save Specialで以前のバージョンとして保存した場合（たとえば、名前を付けて保存v10.0またはv11.0）は、ミキサー内のVST3プラグインはゴーストプラグインとして残ります。以前のPyramixバージョンからはアクセスすることができません。VST3のオートメーションはv11.1より前のPyramixバージョンでは行えません。

- ユーザー インターフェイスなしで提供されるVSTプラグインおよびVST3プラグインの一部の汎用プラグインUIの実装

VST & VST3 Plugin Scanning dialog

VST Plugins Settingsの改善

- Settings>Mixer>VST Plug-ins Settings から、プラグインをスキャンして“ Show” ボタンをクリックするオプションが追加されました。
- Pyramixの実行中にプラグインがインストールされている場合、プラグインをスキャンするには、まずShowダイアログを開き、Updateドロップダウン ボックスを使用して、スキャンの構成を選択します。
- VSTおよびVST3プラグインのスキャン
- VSTプラグインをスキャンする（VST = VST2）
- VSTプラグインをクリーンアップしてスキャンする（VST2再スキャンを強制的に実行します）
- VST3プラグインをスキャンする



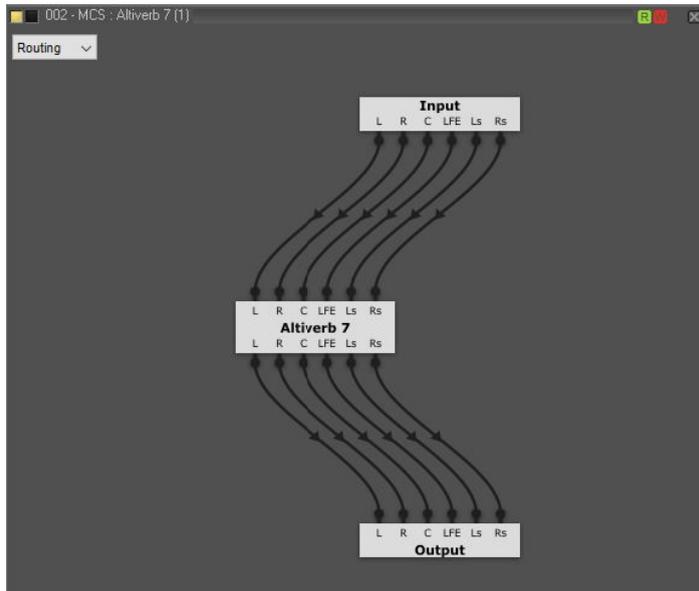


VSTルーティング

ユーザーがチャンネルのルーティングをカスタマイズできるようになりました。

左側の領域でプラグインUIから[オプション]メニューにアクセスできるようになりました。この領域では、Editor または Routing ビューを選択できます。

- VST2およびVST3プラグインのサポート（VST3サポートなし）プラグインユーザーインターフェイスで使用可能なVSTルーティングビュー
- ユーザーが自動チャンネルルーティングを変更できるようになりました
- 入力/出力セクションのチャンネルマッピングは、ストリップ/バスのチャンネル順に従います



Record improvements:

- ファイルの修復およびコンプライアンスの理由から、プロジェクト作成時のデフォルトのレコード形式はPMFからBWFに変更されました。
- バックグラウンドレコーダーを使用する場合、記録先のフォルダが選択されなかった場合、バックグラウンドレコーダーは最後にマウントされたフォルダにファイルを記録します。



V11.1の改良点

Remote Controllerの改良点

- バスの色とセレクションが改良されました。これはリモート カラーをサポートしている全てのコントローラーで行えます。
 - トラック カラー サポート
 - ストリップ カラー サポート (トラックの色も変わります)
 - バス カラー サポート

General EMC の改良点

- VPot モード ナビゲーションの変更：全てのコントローラー
 - 以前の振る舞い：Multiple VPot モードでは、ボタンを押しても何も起こらない
 - 新たな振る舞い：Multiple VPot モードでボタンを押すと、VPotモードでサポートされている全ての機能をスクロールします (8個まで)。例：VPot Panでは、L/R > F/R > T/B > DIV > LFE > RoLR > RoFR > RoBT > L/R >...と変化します。
- Loop mode status feedbackが追加されました。
- F1からF8キーまでがPyramixのShortcut editorにリマップされました：Mackie, SSL, Studer
 - 以前の振る舞い：これらのボタンは特定のVPotサブ アイテムを選択するために使用されていました (例：VPot set to Pan > F1=L/R, F2=F/R, etc...)
 - 新たな振る舞い：これらのボタンはPyramixのshortcut editorに組み込まれました。VPotサブアイテムの選択は、VPotモードボタンを複数回押すことで実行されます。
- Panning VPot ディスプレイの変更：全てのコントローラー
- Mic/Pre コントロール サポート：Mackie, SSL Nucleus
- HUIコントローラー のディスプレイ タイムアウト：全てのコントローラー

SSL NUCLEUS コントローラーのHUIモードでのサポート

改良点：

- 全般的なコントロールのサポート
- トランスポートのサポート
- Jog/Scrub/Shuttleのサポート
- StripTools/BusToolsプラグイン コントロールのサポート
- Solo/Mute/Sendのサポート
- Horus/HapiのMic Pre-gainのサポート
- ストリップ毎のオートメーション モードのサポート

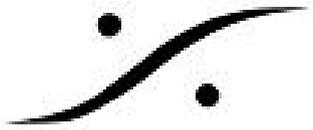
設定手順については以下を参照してください。

<https://confluence.merqng.com/display/PUBLICDOC/SSL+Nucleus+2+Installation+and+configuration>

Nucleusのマッピングについては以下を参照してください。

<https://confluence.merqng.com/display/PUBLICDOC/SSL+Nucleus+2+Mapping>

注意：Pyramixの All Settings > Controller で、MIDI EMC I / O設定は、コントローラーの「SSL NUCLEUS HUI」モードでNUCLEUSを使用していることを確認してください



ANEMAN 1.1.1 Spring 2018:

以下の機能が追加されました。

- 新しいSettingsメニュー：
 - アプリケーション ウィンドウのセットアップの保存とリコール
- Zoneの改良：
 - Zoneの構成の保存とリコール
 - 現在のサンプリング レートの表示
- Quick access メニュー
- エラー レポート
- 新しい Always run モード, "Dock icon"
- 「不明なプロダクト」用のアイコンの改良
- 安定性の向上
- 詳細は、www.aneman.net を御覧ください。

重要 : ANEMANはv11.1からインストーラーがPyramixのインストーラーに含まれなくなりました。
www.aneman.net/#download からダウンロードしてください。